

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2016-002 (2017年1月10日東北大学川内南地区倫理審査委員会承認)
2.研究課題名	精神障害を持つ親に育てられた方における 子ども時代のサポート環境に関する研究
3.研究期間	平成28年11月(倫理委員会承認後)～平成30年3月31日
4.研究の概要	意義・目的 近年、精神疾患により医療機関にかかっている患者数は大幅に増加し、平成23年には320万人に上る。それに伴って精神障害を持つ親を持つ子どもの数が増えていることも予想される。精神障害を持つ親と暮らす子どもは、親の異常体験に巻き込まれ、さらに親が親としての機能を果たせない場合、子どもの生活全般に影響を及ぼすことが考えられる。海外では、精神障害を持つ親との生活が子どもに与えるネガティブな影響についての懸念が指摘されており、社会的な支援が行われている。一方で、日本の家族支援では、そうした子どもはほとんど社会から認識されてこなかった現状があり、国内では一般化できるほどの知見がいまだ得られていない。また、精神障害の親の直接的な養育態度が課題となることのみならず、他の家族成員との関わりや、家族外の社会的な支援状況など、間接的な要因を考慮してとらえる必要性が示唆されている。ただし、一人一人の状況はそれぞれ異なっていることから、その要因については細かに検討する必要がある。そこで本研究では、精神障害を持つ親に育てられた方の子ども時代に置かれていたサポート環境について明らかにし、その支援についての示唆を得ることを目的とする。
	方法 精神障害を持つ親に育てられた20歳以上の健常な子どもの立場の方、10名程度を予定している。対象者は、NPO法人地域精神保健福祉機構(COMBO)が企画している「精神障害を持つ親に育てられた方のための家族による家族学習会」に参加されている方、および地域精神障害者家族会に参加している子どもの立場の方に協力を募る。(「精神障害を持つ親に育てられた方のための家族による家族学習会」とは、同じ立場の子ども同士で、自らの経験について語り合うピア教育プログラムである。)上記の対象者の中で、研究内容に同意の得られた方に対して、ワークシート及び半構造化面接を行う。ワークシートでは、コンボイ・モデルを援用し、①子どもの頃の生活について、親族や近隣、友人といったインフォーマルなサポート源との接触や、サポートの授受について位置付けを回答してもらう。また、半構造化面接では、それぞれのサポート源について、②その位置づけの理由、③実際に生活の中で助けとなったサポートや関わりについて質問する。それに加えて、④実際には無かったが、当時の自分が必要としたサポートや関わりはどのようなものだったのかについて質問する。 なお、参加者に対する謝礼の支給は行わない。
	問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学大学院教育学研究科人間発達臨床科学講座 (022-795-3768) 東北大学川内南地区「人を対象とした医学系研究」倫理審査委員会事務局 (022-795-6003)